

## 「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」 論文誌発行にあたって

富 田 悦 次†

情報処理学会「数理モデル化と問題解決研究会」(MPS研究会)では、独自に情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」(略称 TOM)を編集することになり、1999年2月にその第1号(TOM1)、同12月に第2号(TOM2)を発行し、幸い非常にご好評をいただきました。これは、既存の情報処理学会論文誌とは別に、研究会を主体として編集される論文誌を通じて多様な価値を創造し、情報科学の新たな発展を図ろうとする情報処理学会の改革の方針にいち早く乗ったものです。さらにその後、既存の情報処理学会論文誌(Journal)とTOMなどのように研究会が主体となって編集が行われる論文誌(Transaction)との位置付けが明確に示され、研究会登録会員以外でも全論文誌の購読ができる体制が整いました(「情報処理」(Magazine)第41巻第4号(2000年4月)会告 p.35: “情報処理学会論文誌の投稿および購読のご案内”参照)。このような新しい体制の下で、順調にこの第3号の発行に至りましたのも、ひとえに関連の皆様方の多大なご尽力の賜物で、心より厚く御礼申し上げます。

本論文誌は、コンピュータを用いた問題解決が求められる理工系・人文社会系の諸分野全体を対象とし、問題の数理的把握とモデル化およびその有効な解決手法の開発、応用に関する活発な学際的研究発表の場として、独自の立場を確立してきています。詳細につきましては、ぜひ TOM1, TOM2 あるいは本論文誌のホーム

ページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/TOM/>) をご参照ください。

なお、本論文誌への投稿論文は、MPS研究会あるいはシンポジウムにおいて、少なくとも一度は研究発表がなされた内容であればよいものとなりましたが、研究会発表の研究報告(資料)のページ数制限に対してはできる限り柔軟に対処したいと考えています。また、本号から、英文の Instructions for authors も付け加えました。これらにより、英語を主として使用している方も含め、無理のない形式で、積極的に研究会発表、論文誌投稿を進めていただければ幸いです。

MPS研究会に関する最新情報などはMPS研ホームページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mip/>) あるいは、MPS メーリングリストにおいて適宜お知らせしています。まだ加入されていない方は、ぜひご加入ください(本号論文部分の後に添付の「情報処理学会入会と研究会登録、および、メーリングリスト加入のおすすめ」参照)。

また今年度から、MPS研究会において、できるだけ産業界の特徴ある事例紹介などを「招待講演」としてお話いただき、産・官・学の積極的交流が図られるように計画を進めていますが、その効果が本論文誌にも良く反映することを期待しています。今後とも引き続き、本論文誌に対して幅広いご期待と温かいご支援をたまわりますよう、切にお願い申し上げます。

† 情報処理学会「数理モデル化と問題解決研究会」主査  
電気通信大学